総合的な学習の時間指導論
Teaching Methods of the Period of Integrated Study

AIDA Yasunori
會田 康範

科目ナンバリング：UTL-1-311-02

■授業の目的及び到達目標
各教科で育まれる見方・考え方を教科横断的に、総合的に活用して実社会・実生活の課題を多様な角度から探究する学びである総合的な学習の時間をどのように指導すべきか。指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識や技能を身につけることがこの授業の目的である。総合的な学習の時間の意義を理解し、各学校の目標に即して内容を定めることができること、その上で指導計画を作成し、実際に指導し、生徒の学習状況について評価することができるようになることを到達目標とする。

■授業計画
1 総合的な学習の時間とは何か
総合的な学習の時間とはどのようなものか、横断的・総合的な学びを通して課題を解決し自己の生き方を考えていく時間であるという特質とその意義について考える。
2 総合的な学習の時間の目標と年間指導計画・単元計画について
学習指導要領における総合的な学習の時間の目標を理解し、各学校における目標及び内容を定める際の考え方について考える。また、教科横断的に実施される総合的な学習の時間の年間指導計画と単元計画の作成についてその重要性を理解するとともに具体的な事例についても触れる。
3 探究的な学習をどのように実践するか事例を考察する①
探究的な学習としてスクール・アイデンティティを涵養する自校史学習をどのように実践するか、具体的な事例を通して考える。
4 探究的な学習をどのように実践するか事例を考察する②
探究的な学習をどのように実現するか、博物館との連携の仕方、博物館史・資料の活用を題材に具体的に考える。
5 探究的な学習をどのように実践するか事例を考察する③
発災によって人命や私財とともに人類共有財産である文化財も損失する可能性がある。喫緊の課題である防災教育とともに、文化財レスキュー活動などを通して文化財防災の重要性を学ぶプランを考察する。
6 総合的な学習の時間の評価について
総合的な学習の時間における学習状況をどのように評価するか、評価方法について考える。
7 総合的な学習の時間の意義と重要性
これまでの授業内容を振り返り、まとめるとともにレポートを提出させ、フィードバックとしての解説も行う。そして改めて総合的な学習の時間の意義と重要性について考える。

■授業の方法
主に講義を中心に進めていくが適宜、テーマに関する発問をして学生の思考を促したり、グループワークやプレゼンテーションを行わせるなど主体的な学びも求めていく。学生には主体的、積極的な取り組みを求めていく。

■予習・復習
毎時、次回の内容に関して事前に調べることを求める。これを予習とする。終了後はレジュメ、ノートなどを見直し、授業内容をまとめ直すとともに、授業時に示した関連図書等を読むこと。これを復習とする。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
レポートの成績 70%、授業中の態度・取組状況 10%、リアクションペーパーの内容 20%を加味して総合的に評価する。最終回の授業においてレポート提出を行いフィードバックとしての解説も行う。

■教科書・参考書
・文部科学省「中学校学習指導要領」（平成 20 年 3 月告示・道徳改訂反映後及び平成 29 年 3 月告示）同「解説　総合的な学習の時間編」（平成 20 年 9 月告示及び平成 29 年 7 月告示)、『高等学校学習指導要領』（平成２１年告示及び平成３０年告示）同「解説 総合的な学習の時間」文部科学省著作刊行物（平成 21 年 12 月告示）
・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　中学校編」（平成 22 年 11 月告示)、「同　高等学校編」、（平成 25 年 7 月告示）

■関連する科目
特別活動論、教育方法、生徒指導論、進路指導論、教育原理、教職論、教育史、教育社会学、生涯学習論、教育課程論、その他教職課程に関するすべての科目

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）
担当者は高等学校において 30 数年に及ぶ教育実績を有し，「博学連携」での学習者主体の能動的な授業を創造し実践研究を重ねてきた。この実務経験に基づいて「総合的な学習の時間」の指導法を検討し，指導していく。